



利益の追求

3年生は4月になれば、本校を離れ、社会人として、あるいは上級学校の学生として新たな歩みをスタートさせます。就職者は雇用主から給料を貰い、それを糧にして生活を営みます。多くの就職先は民間企業ですから「利益の追求」は、企業存続と従業員の雇用を守るために、自由主義の枠組みを維持するための根幹かもしれません。

一方で、目的を見誤った生産活動は「目先の利益」は得られても、継続的に発展していく上では、企業存続の妨げとなるかもしれません。企業にとっての利益が、市民にとっての利益であり、国にとっての留役であり、自然環境にとっての利益であり、地球が存続するための利益でありたいものです。

化石燃料を燃やすエンジンは地球環境保全には不利益をもたらしますが、人間の利便性向上に対しては貢献してきました。これまでと同じ方法を続けることば不利益が発生するなら、それを改めなければなりません。機械科で学んだガソリンエンジンの知識は水素エンジンの開発に活かす技術に繋がります。ガソリンや軽油ではなく水素を燃やすエンジンへの転換や、電気自動や燃料電池自動車への変換は既に始まっています。

全体を俯瞰する姿勢も大切です。電気自動車が普及しても、電気を火力発電で作れば地球温暖化を始めとする環境問題への対応は道なかばとなります。極論を論じるのも危険をはらみます。自動車がなくなれば排出ガスがなくなる。自動車をなくすべき。これは極論です。ですが、人類がこれまで享受してきた快適さをやすやすと放棄できるものではありません。SGDsの学習で学んだことが、頭で「わかる」だけでなく、日常の生活にどのように「実現」できるかが問われます。持続可能な開発は大きなテーマです。

人間は一人ひとりがみな違います。それぞれの思いも違います。その違いがあることが前提で、どう進むのかは一人ひとりで違います。向かうべきベクトルの方向さえもブレはあるのが現実的な社会です。全体主義でことは運びません。意見百出の議論の中で、折れ曲がった道を進むのがこれまでの歴史のように思います。

利益の追求に話を戻せば、「安かろう悪かろう」の製品を売って、目先の利益を上げたところで、いつかは消費者に見放され、長期的な利潤追求には繋がりません。

3年生の皆さんは、新入社員として歩み始め、まずは企業の風土になじむことからのスタートでしょう。ですが地球市民の「人間」として、どう歩むかも忘れてはならない視点です。